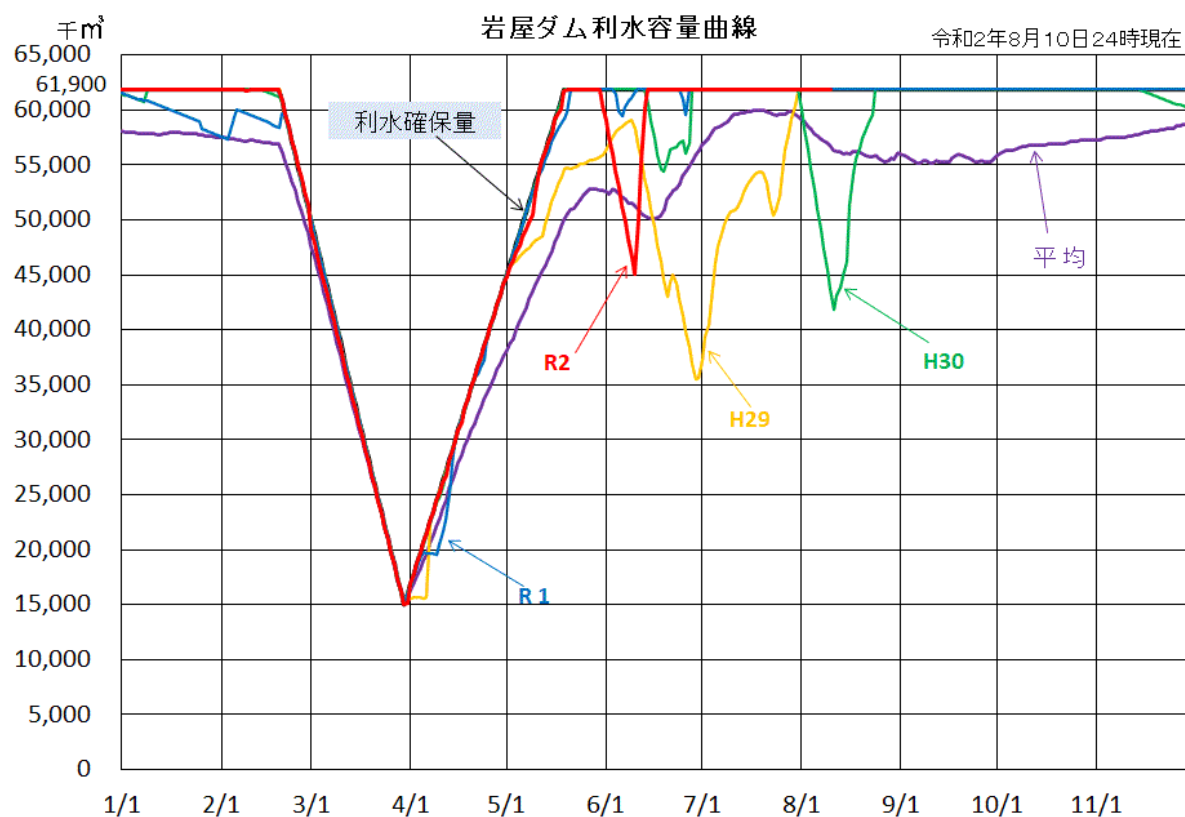




岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン（貯水率100%）
農業用水取水量 2,130万トン（取水率50.8%）（ともに8月10日現在）

8月7日は立秋でした。暦の上では秋となりましたが、最高気温が35度以上の猛暑日となる日が続いています。利水者の皆様には、早期米の稲刈り準備など農作業にご多忙の日々をお過ごしのことと思いますが、こまめに水分補給をして熱中症にならないよう体調管理に努めて下さい。



さて、水源地である岩屋ダムの利水貯水量は、8月10日現在、6,190万トンと満水状態になっています。岩屋ダム地点の7月の降水量は、長期間にわたる梅雨前線の停滞により、1,307mmと平年を大幅に上回る状況（平年比333%）で、利水貯水率も100%で推移しました。

一方、農業用水取水量は、8月10日現在、2,130万トン（取水率50.8%）で、過去3か年の平均取水量より264万トン程少なくなっています。

本年の水稻用水使用期間もあとわずかなりましたが、利水者の皆様には、引き続き、河川、ため池等の地区内水源を最優先に利用していただく等、右岸用水の有効活用にご協力をお願いします。

水資源機構中部支社に要望書を提出

～木曾川右岸用水施設機能保全について～

今年度が事業最終年度となる木曾川右岸緊急改築事業では、老朽化の著しいPC管の改築及びトンネルの改修（空洞充填）が行われ、既に工事が完了した区間ではその事業効果は確実に現われています。

一方、管理開始から40年を経過しようとしている今、施設の老朽化は急速に進行しており、PC管の継手からの漏水・出水が相次いでいます。また、揚水機場では、老朽化に伴うポンプ本体や電動機機器等の損傷が増大し安全運転に問題が生じるようになってきています。

連合ではこうした現状を踏まえ、用水の安定供給と安全な施設管理を図る観点から、8月6日に伊藤理事長が水資源機構社中部支社を訪れ、次の事項について早急に取り組んでいただくよう要望書を提出しました。

【主な要望事項】

- 老朽化が著しいPC管の改築は喫緊の課題であり、未改築のPC管（約15km）の計画的な施設機能調査の実施と保全計画の見直し。
- 経年使用による誤動作等の懸念が高まっている揚水機場の機器類の調査及び対策の実施。
- 幹線導水路等のトンネル背面空洞調査が行われていない約7kmの調査及び対策の実施。



田中支社長に要望書を提出



要望事項を説明

◇東海地方 向こう3か月の天候の見通し（令和2年7月22日 名古屋地方気象台発表）

- 8月・・・平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並か高い見込みで、降水量はほぼ平年並の見込みです。
- 9月・・・天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は高い見込みで、降水量はほぼ平年並の見込みです。
- 10月・・・天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は平年並か高い見込みで、降水量はほぼ平年並の見込みです。